

平成 26 年 4 月 1 日作成
平成 26 年 4 月 10 日修正

第 12 期 男女共同参画学協会連絡会 第 2 回運営委員会 議事録 (案)

日時：平成 26 年 3 月 19 日 (木) 13:00～16:15

場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館 121 会議室

出席者：正式加盟学協会／ (39 学協会、62 名)

佐藤絵理子(高分子学会)、清水美穂、跡見順子(日本宇宙生物科学会)、林ゆう子、森義仁、栗原和枝(日本化学会)、塩満典子(日本原子力学会)、尾崎美和子(日本女性科学者の会)、平田典子、柏原賢二、芥川和雄、杉山由恵、酒井高司、片長敦子、張良、高良淑子、高市典子、篠田佐和子(日本数学会)、村田律子、渡辺恵子(日本生化学会)、坂田剛(日本生態学会)、根岸瑠美(日本生物物理学会)、内田さえ(日本生理学会)、光武亜代理(日本蛋白質科学会)、光永-中坪敬子、窪川かおる、澤田美智子、佐藤恵(日本動物学会)、吉田薫(日本発生生物学会)、小形正男(日本物理学会)、丸田夏子、小野弥子、山口恵子(日本分子生物学会)、太田祐子(日本森林学会)、木戸ゆかり(地球電磁気・地球惑星圏学会)、田中直子(日本バイオイメージング学会)、早野由里子(日本育種学会)、関根あき子(日本結晶学会)、原田尚美(日本地球惑星科学連合)、大鐘潤(日本繁殖生物学会)、堀頭子(錯体化学会)、榊原恵子(日本進化学会)、篠原美紀(日本遺伝学会)、八藤後猛(日本建築学会)、植田富貴子、金井正美(日本獣医学会)、大橋徳子(日本質量分析学会)、須之部友基(日本魚類学会)、窪川かおる(日本水産学会)、恒次祐子、中山榮子(日本木材学会)、岩熊まき(眞起)(日本技術士会)、永田典子、角川洋子(日本植物学会)、今城純子(日本解剖学会)、鹿川哲史(日本神経化学会)、八代田千鶴(「野生生物と社会」学会)、大矢純子、井端一雅、千安由紀子(計測自動制御学会)、麻見直美(日本体力医学会)、大坪久子(第 7 期・第 8 期提言委員会委員長・日本遺伝学会)、小林富美恵(日本熱帯医学会)

オブザーバー加盟学協会／ (4 学協会、5 名)

田中真弓、工藤里絵(地盤工学会)、齋藤一弥(日本液晶学会)、工藤里絵(土木学会)、藤ノ木政勝(日本細胞生物学会)

委任状：正式加盟学協会／ (10 学協会)

化学工学会、電子情報通信学会、日本植物生理学会、日本神経科学学会、日本糖質学会、生態工学会、種生物学会、日本畜産学会、日本魚病学会、日本中性子科学会

議事

I 確認事項

1. 第12期 第1回 運営委員会議事録が承認された。(資料 当日配布)

II 報告事項

1. 第11回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム報告書のuploadについて
12期平田委員長より、シンポジウム報告書が連絡会HPへWeb公開されたことが報告された。また、11期へのお礼が伝えられた。

URLアドレスは以下のとおり：

http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2013/11th_sympo_report.pdf

2. 男女共同参画アンケート結果データベース利用申請について (資料回覧)

第12期第1回運営委員会以降に申請があり、メール審議で承認済みのデータベース利用申請書が回覧された(4件)。

- ・園芸学会
- ・日本発生生物学会
- ・日本木材学会
- ・日本データベース学会

日本森林学会の太田氏より、データベースを利用した解析について、報告と資料配付が行われた(利用の承認は第11期にて済)。公表は2件(森林学会の季刊誌、森林学会のHP)。太田氏からは「男女共同参画学協会連絡会第3回大規模アンケートデータの利用と管理に関するガイドライン」に「6. 利用学協会は、利用の結果を公表前に連絡会に報告する」と記載されているが、今回、公表前に報告を行わず事後報告になってしまったことへのお詫びがあった。しかし平田委員長より、第11期の道上氏および第12期事務局によって、今回の例は問題ないと判断した旨が、伝えられた。

3. 協賛・後援依頼および報告 (資料回覧)

第12期事務局で承認済みの以下の協賛依頼・後援依頼および後援名義実施報告について、平田委員長から説明があり、資料一式が回覧された。また、協賛依頼(1)、後援依頼(3)(4)、後援名義実施報告については、それぞれ主催の学協会から説明が行われた。※詳細は連絡会HP「共催・協賛・後援等催し」参照のこと。

・協賛依頼 (2件)

- (1)第14回男女共同参画シンポジウム

「社会にはばたく、世界にはばたく、あなたがリーダーになるために」

主催：日本化学会

⇒栗原氏からイベントについてのご説明。

年会へのご参加が無くてもフリーでご参加いただけること、今回アメリカ化学会の前会長(アジア系では初めての女性会長)の講演があるので、アジア系女性のご活躍について話を聞くことができる。

- (2)第6回男女共同参画ランチョンミーティング

「金属材料分野での多様なキャリアパス」

主催：日本金属学会・日本鉄鋼協会

・後援依頼 (4件)

- (1)「平成25年度 高専女子フォーラムin四国」(代表幹事校：香川高等専門学校)

主催：国立高等専門学校機構

- (2) 「女性技術者登用による産業競争力強化を目指して」

主催：一般社団法人 技術同友会

- (3) 第125回日本森林学会大会 男女共同参画関連企画100周年記念特別セッション
「男女共同参画の実現からダイバーシティの推進へ

～100年後の森林と人類のために、森林分野のあり方を考える～」

主催：日本森林学会

⇒太田氏からイベントについてのご説明。

- (4) 「日本木材学会ダイバーシティ推進委員会 第2回ランチョンミーティング」

主催：日本木材学会ダイバーシティ推進委員会

⇒中山氏（日本木材学会）からイベントについてのご説明。

・後援名義実施報告（1件）

- ・第5回日中韓女性科学技術指導者フォーラム

主催：日本大学、INWES-Japan

⇒岩熊氏（日本技術士会）からイベントについてのご説明。

4. 第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム準備状況

シンポジウム概要が記載されたイメージポスターが映写され、12期シンポジウム担当の杉山氏より、第12回シンポジウムの準備の進捗状況について報告された。テーマについては、12期からは以下のように提案したいが、ご意見等があれば12期事務局へメール等でご連絡いただきたい旨の説明があった。日時、場所、主催、共催は以下のとおり決定。基調講演については人選中（内諾を得るべく活動中）。後援は昨年を参考にして以下を提案。

~~~~~  
テーマ（案）：女性研究者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～

日時：2014年10月4日（土）9時半～5時半

場所：東京大学大学院数理化学研究科（駒場キャンパス）

主催：男女共同参画学協会連絡会

共催：東京大学（会場費は無料）

後援（案）：内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、  
経済産業省、日本学術会議、科学技術振興機構

~~~~~

ここで、平田委員長から、12期事務局（数学会）のメンバーの紹介があった。芥川氏（シンポジウム担当）、片長氏（要望書担当）、柏原氏（シンポジウム担当）、杉山氏（シンポジウムチーフ）、平田委員長、高市氏（数学会事務局）、酒井氏（IT関連担当）。なお、12期事務局は全員で22名。南は九州大学から北は東北大学まで、全国のいろいろな大学に所属しているメンバーで構成されている。

5. 加盟学協会の活動報告

なし。

6. WG の活動報告

最新のワーキンググループ一覧が映写され、以下のWGから報告があった。

○「女子中高生理系選択支援」WGの森氏（日本化学会）から活動報告：

このWGは、国立女子教育会館（NVEC）における女子中高生 夏の学校（夏学）の実行委員会と一緒に活動を行うものである。夏学についてはJSTへの申請が通った。今年もの夏学の日程：8月7～9日である。スケジュール等をリエゾンMLにも流す予定。今年の夏学委員長は、湯浅氏（物理学会）。また、委員会開催の情報もリエゾンMLに流すので、是非参加して意見をいただきたい。

最後に、平田委員長より、景品グッズのご提供について是非ご協力をお願いしたい、と口添えがあった。

7. 分担金の請求について

平田委員長より、年度が換わって4月になってから、分担金の集金を開始したいと伝えられた。加えて以下が説明された：分担金に関する書類（「請求書類について」）を配布するので、各学協会の事務局や担当部署などへお渡ししてご説明いただきたい。分担金の金額は、名簿調査票でご連絡いただいた会員数に基づいて算出されるので、金額がわからない場合は、12期事務局に一覧表があるので問い合わせいただきたい（現状の会員数情報に基づいた金額一覧表は後ほど配布された）。支払期日は、5月末日とさせていただいた。年度切替で会員数が大幅に変わらない場合は、昨年と同じ金額になる。分担金は12期事務局へお送りいただきたい。本連絡会は各学協会の分担金のみで運営されているので、ご理解いただきたい。シンポジウムの費用については、分担金とは別に、シンポジウム開催の直前に集金させていただくことになるので、ご協力いただきたい。

8. 第13期以降の幹事学会について

平田委員長より以下のような説明があった。

第13期幹事学会については、第1回運営委員会でご紹介し、日本植物生理学会・日本植物学会の方々に挨拶していただいた（お引き受け下さることに関し審議・承諾済）。委員長、副委員長については、以下のような予定であり、委員長候補者の西村氏には第3回運営委員会の折にご承認いただきたい。

~~~~~

委員長予定者：西村いくこ氏（植物生理学会、京都大学大学院理学研究科生物科学専攻）

副委員長予定者：永田典子氏（植物学会・日本女子大） →連絡会担当

副委員長予定者：田中寛氏（植物生理学会・東工大） →シンポジウム担当

~~~~~

○副委員長予定者である永田氏より、本日のこの時間に富山県で植物生理学会の年会が行われているため、植物生理学会は全員参加できないことへのお詫びと、連絡会担当として挨拶があった。

平田委員長より、第14期幹事学会については、第13期の幹事学会で正式に決定される。第15期幹事学会については募集中なので、自薦・他薦をお願いしたいと伝えられた。

III 審議事項

1. 第12期監事

監事の候補者（第11期委員長 澤田 美智子氏、第11期副委員長 箕浦 高子氏）について審議。⇒拍手をもって承認された。

○第11期委員長 澤田氏（日本動物学会）より挨拶があった。

2. 新規加盟：日本熱帯医学会（資料 当日配布）

- 平田委員長より、第12期事務局で加入審査を行い確認済みである旨、伝えられた。
- 日本熱帯医学会の小林 富美恵 氏（男女共同参画担当理事）より、学会の説明とご挨拶があった。当学会は医師または非医師から成り立っており、現在の会員数は693名（3/11時点）。そのうちの女性の人数は156名（22.5%）。評議員は116名のうち13名が女性（11.2%）。門司理事長がこの2～3年で女性の評議員を増やした。ただし、理事は16名のうち女性は1名。女性支援や男女共同参画について勉強させていただき、これから熱帯医学会を活力のある学会にしていくために、本連絡会の先輩方に教えていただきたいという思いがあり、参加させていただいた。

⇒拍手をもって承認された。

3. 男女共同参画学協会連絡会正式会員の脱退並びにオブザーバー会員への新規登録について：応用物理学会（資料 当日配布）

応用物理学会は欠席だったため、第12期事務局へ応用物理学会の人材育成委員会から送られた依頼状「正式会員の脱退並びにオブザーバー会員への新規登録（依頼）」が、平田委員長により読み上げられた（依頼状は映写）。依頼状では、委員の大幅な削減があったこと、学会内と国際連携を見据えた男女共同参画へ注力していくことになったこと、しかし国内連携も重要なため本連絡会とも連携を残したいこと、オブザーバー会員への変更は当学会理事会にて承認されていること、などが説明されていた。

- 栗原氏（日本化学会）より、ご意見があった。

自分は第8期幹事学会（高分子学会）のとき委員長をしていたので、当連絡会の運営や歴史的なことをよく知っていると思うので意見をさせていただきたい。応用物理学会は、日本化学会や日本物理学会と一緒に中心になって、この理工系学協会連絡会を作った発起人学会の一つであり、連絡会をサポートして来た学会であると理解している。連絡会への参加・不参加は各学会の自由意思であり尊重されるべき事であるが、一回は慰留すべきではないだろうか。

応用物理学会は、本連絡会の規約の「2. 目的」の「学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献する」ということを提案し、連絡会を作ったのだから、今後も是非、正式加盟学会として連携していってもらいたいと、伝えるべきではないか。

- 平田委員長より返答：タイミングを見計らって、応用物理学会にご連絡するようになりたい。本件については、継続審議とさせていただくということによいか。

⇒応用物理学会を慰留するというので、拍手をもって承認された。

4. 最新のWGのリストおよびコア学会について

最新のWGリストが映写され、平田委員長より、以下の提案があった。

「女性リーダー・若手育成」WGは、応用物理学会がコア学会になっている。応用物理学会が正規加盟学会でもオブザーバー加盟学会でも、人手が無いという話をされているので、このWGのコア学会までを慰留するのは難しいのではないか。そこで、次のように提案したい。この活動内容は今回の要望書の内容にも取り上げられているものでもある。コア学会として他の学協会から立候補があれば交替、なければ例えば休止という形にしてはどうか。サブ学会として現在、日本地球惑星科学連合に支援をいただ

いているが、WGの内容は要望書の内容のメインの部分になるので、連絡会全体で取り組むということであれば、WGが休止でも後ろ向きになったということではないと思う。

⇒このWGを休止し、活動内容は連絡会全体で取り組むことに関し、拍手をもって承認された。

5. ホームページの修正、移転について

平田委員長より、以下のような説明と提案がなされた。

現在の連絡会のHPは応用物理学会のサイトをお借りしている形であり、もしオブザーバー会員になった場合は、そのままお借りしているのは具合が悪いため、12期事務局にて以下の検討を行った。ご審議いただきたい。

(1) 男女参画学協会連絡会のwebサイト移転について

本連絡会のHPをずっと管理してくださっているラボ・アクセラレーター湯浅氏に相談したところ、この会社のテストサイトのサーバースペースを無料で貸していただけるという提案があった。ただし、全ファイルを移転するためには、移転費用が発生する（1ファイルにつき100円ほどなので、全部で約3万円ほど）。これを承認いただければ、移転作業を今から依頼し、完成は5月連休明けということで相談している。上記の支出は可能であると判断した。承認いただければ、応用物理学会の負担も多少軽くなるのではないかと考える。また、移転すれば、Googleで検索したときにサイトの場所として「応用物理学会」と表示されるという問題も解決されると思われる。

⇒移転作業依頼及びサーバースペースの借用について、拍手をもって承認された。

(2) 男女参画学協会連絡会のwebサイトのリニューアルについて

上記(1)は現状のWebサイトをそのまま移行する形になるが、せっかくなので、綺麗にリニューアルを提案したい。ただリニューアルについては、上記(1)とは別のかなりの費用がかかると思われるため、12期では費用を捻出するのは予算的に難しくなると思われる。ラボ・アクセラレーターに相談してみるが、もし12期で難しい場合は、13期以降で継続してご検討いただきたく、継続審議とさせていただきたい。

○根岸氏（日本生物物理学会）からご意見があった。

現在、1社だけに委託してWebサイトの管理をしているということだが、今回、当該会社にサーバーを借りて、移転もした場合、恒久的に、その会社をお願いするということになるのか？移転は急がないで、リニューアルをするときに相見積もりをとり、依頼する会社を検討した方がよいのではないか？

○平田委員長より返答：相見積もりはすでに取りっており、この移転費用は通常では考えられない安い価格である。

6. 規約の文言修正について（資料 当日配布）

平田委員長より、規約の文言修正について、提案と説明があった。

規約の修正になるため、ここで即、承認という形ではなく、各学協会に持ち帰りいただいて、各学協会のご意見をいただき、次回の第3回運営委員会（6月24日の予定）で審議・承認という形をとりたい。配布した資料「男女共同参画学協会連絡会規約（改定案）」の網掛けの部分が修正案（提案）である。

○平田委員長より修正内容について説明：

今まで会員の資格はきちんと定められていたが、オブザーバーについてはどういう資格であるのかわかりにくかった。そのことを第11期事務局から申し送りいただいていた。今回の修正案は、その点をわかりやすくしようと検討した結果である。具体的な修正点は2カ所。「会員」を「会員およびオブザーバー」に修正してみた。また、第3回運営委員会で承認されることを想定して、改定の日付を「平成26年6月24日」として修正してある。

軽微な修正ではあるが、前例に則って、各学協会に持ち帰りの上、ご審議をいただきたい。そして、6月24日に諮りたいが、各学協会の賛否については、当日では無く、事前に、4月末を締め切りの目安として、各学協会からのご意見およびご審議の結果をご連絡いただきたいと思います。これについては、またリエゾンMLにてご連絡するのでよろしくお願いいたします。

○林氏（日本化学会）よりご意見：

4.1の網掛け部分は「オブザーバー」と修正されているが、その直前では「オブザーバー参加学協会」となっている。会員と対になるのは、どちらの言葉なのか

○平田委員長より返答：

会員とオブザーバーの資格は、3ページの方に、別々ではなくまとめて書いてあるが、確かに「会員」「オブザーバー」「オブザーバー学協会」が混在している。第12期事務局で検討し、言葉についても整理したい。

○澤田氏（日本動物学会）よりご意見：

第11期で検討したときには、「オブザーバー」だけにすると個人でも参加できるというイメージを持たれるので、あくまで学会あるいは協会という組織として加入していただくというところを強調して「オブザーバー（参加）学協会」としたつもりである。また、3ページ目「細則」の【項目7. の分担方法】の1. の「会員」も「会員およびオブザーバー（学協会）」のように修正しないと、会費を両方に分担していただいているので、問題と思われる。

○平田委員長より返答：

【項目7. の分担方法】の1. は修正が必要であろう。他にもお気づきの点があれば、教えていただきたい。以上の意見をまとめると、「会員」「オブザーバー」では個人の参加が可能であるかのように見えるので、すべての箇所で「会員学協会」「オブザーバー（参加）学協会」とするのがよいと思えるがどうだろうか。

○澤田氏（日本動物学会）よりご意見：

先頭に「オブザーバー学協会（以下、オブザーバー）」としておけばよいと思う。

○平田委員長より返答：そのように検討したいと思う。

○永田氏（日本植物学会）よりご意見：

もし、いろいろなところを書き換えるのであれば、2ページ目の「6. 採決」の「出席学協会を各一票とし」のところも、5. 2の記載と同じように「出席学協会（オブザーバー学会を除く）を各一票とし」のように修正すべきではないだろうか。オブザーバーは採決権を持たないということが大きな違いだと思う。

○平田委員長より返答：

この機会に全体的に良い文言にしたい。急ぐ必要はないのであるから、承ったご意見をまとめて確認したあと、リエゾンMLに流すかもしくは、第3回運営委員会（6月24日）に再度、お諮りする。ご協力をお願いしたい。

7. 提言・要望書WGによる要望書案について（資料 リエゾンMLおよび当日配布）

提言・要望書WGによる要望書案については、最初に30分ほど、平田委員長と佐藤氏（日本動物学会）による説明が行われたあと、各学協会から多くの意見が出され、1時間ほど議論が行われた。

その後の紙による採決の集計結果は、賛成が 21 学協会。分母は出席した正式加盟学会 39、従って21/39となり過半数を超えたため、可決された。

【事務局注】当日、平田委員長から集計結果として、20/39 と発表されたが、その後、事務局で見直したところ、正規加盟学会だが誤って採決の紙にオブザーバーと書かれていた学協会があったため、賛同に1学会追加となった。よって賛同は21学協会となる。

~~~~~

○平田委員長からの説明は以下のとおり。

まず、以下の配付資料(A) (B)について説明がなされた。

(A) 「要望書」12 期 WG 最終案 2014年2月27日版

(B) 要望書提出の趣意書

上記(A) (B)は、2月27日にリエゾンMLに配信した「「要望書」12 期 WG 最終案」(2014\_2\_27男女参画要望書.docx) および「要望書提出の趣意書」(2014\_2\_27趣意書.docx) をプリントアウトしたものである。

2月27日版では、2月15日にリエゾンMLに配信した「要望書WG案 (2月14日版)」(2\_15男女参画要望書(WG).docx) および「要望書提出の趣意書」(2\_15趣意書(WG).docx) に対して、リエゾンの皆様のご意見を含めて修正してある。

いただいたご意見はできる限りすべて盛り込んだつもりである（ご意見のメールを映写）。ご意見は7つの学協会（日本植物学会、地盤工学会、日本動物学会、日本発生物学会、日本分子生物学会、日本化学会、種生物学会）からいただいた。応用物理学会からは個人的な意見をいただいた。寄せられた意見としては、カタカナを使った言葉が多くわかりにくいとあり、すべてわかりやすく修正した。また、「女性研究者」という言葉だけではなく「女性技術者」という言葉も取り入れるべきではないか、という意見に対しては、タイトルと冒頭に両方を配置し、以降は「(以下女性研究者と称する)」とい修正させていただいた。あとは、文言の修正について、いろいろなご意見があったが、種生物学会（要望書には学会・理事会ともに賛成）からのご意見で、「ポジティブアクションということで、女性研究者・教員割合の数値目標をより高い数値に設定すると、現在のようにポストクの採用人数が限られている中では男性ポストクの士気が下がるので難しいのではないか」「女性リーダーというものを前面に押し出すのは、まだ底上げが不十分な状態なため、リーダー育成が急務かきわめて疑問である」というものがあった。これは今回の要望書の修正に鑑みることはできなかった。その他は殆ど修正した。

上記を踏まえ、もう一度、要望書(A)の文章をご覧いただきたい。要望書にはまず、趣意書(B)というものを添付する（趣意書には、なぜ、この要望書を急いで出すのか、ということが説明してある）。また、要望書を持参したときには、今までの女性研究者研究活動支援、RPD、女子中高生進路選択支援などについては、謝意を述べるようにしたい。

なお、第9期では要望書を郵送されたということだが、今回はその前のときのように持参することを予定している。そうすれば口頭で補足することができる。それも含みおきいただいた上で、現在の要望書の内容で承認していただければ、と思う。4月の頭に急いで持参しないと、意味がなくなってしまうため、本日ご審議いただきたい。

要望書の内容は、第3回大規模アンケートに基づいている。それを示す参考資料は、リェゾンMLにて配布済（※）だご担当いただいた佐藤氏にご説明いただきたい。

（※）<http://trout.math.cst.nihon-u.ac.jp/~hirata/LiaisonReference.pdf>

○佐藤氏（日本動物学会）よりご説明（LiaisonReference.pdfを映写）：

この資料は、第3回大規模アンケートと今回の要望書の内容が、どんな風にリンクしているのかを示すものとして作成した。まず2～3ページ目はアンケートの趣旨として、アンケートが政策に生かされていることを示すものだが、これはアンケートを行うときに作成したチラシと同じである。次に4ページ目では、要望書の背景が、アンケート結果とどのようにリンクしているのか、ということを説明している（文中の緑の番号は第11回シンポジウムのアンケート報告講演でのスライド番号）。その次のページ以降は、政策にどのように反映されているか、今、どのような政策が走っているのか、という説明をし、それから内閣府が出しているデータを示した。次の8～9ページ目は政策がどのように活かされてきたか、という報告書から取ったものである。その次の10～11ページ目では、女性研究者は相変わらず少ないことを示すデータを2つ載せている。

12ページ目以降がアンケートの内容になる。第11回シンポジウムのアンケート報告講演で使用されたスライド（担当された日本動物学会の道上氏が作成されたもの）から抜粋した（アンケートからこのような要望が読み取れるということをいくつか示し、アンケートが今回の要望書の背景となるものであることを説明する資料としてまとめた。解析結果報告書そのものよりも、このスライドの方が比較されていて見やすく理解しやすいため）。

なお、第11回シンポジウムでの講演スライドは、連絡会HPの [アンケート調査] に公開されている (<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html>)。

○平田委員長より補足説明：

要望書の主な部分はこのように第3回大規模アンケート解析結果に基づいたものである。要望書を持参するときには、上記資料を印刷したものを必ず相手全員にお渡しし、口頭で説明するようにしたいと思っている。

引き続き、平田委員長より、要望書の一部が読み上げられ、説明された（読み上げられた内容については本議事録では割愛する）。

要望書の主な項目は5項目である。1. は、3本の柱にしており、各タイトルは政府の予算案に組み込めるような書き方にしている。2. は、大規模アンケートの第3回目ですら新たにでてきた項目なので大きく取り上げた（4項目）。3. は、日本の女性が努力が足りないなどというような遅れているというエビデンスは見当たらないにもかかわらず、日本は世界に比べて最低の女性研究者割合でありつづけているのは、なぜなのか、理由が見当たらない（韓国にも抜かれた）ため、やはりポジティブアクションは、今後ますます必要なのではないかと考えているので、そのような内容とした

（202030の継続）。また、女性比率のデータが公開されていないので、機関ごとにそれを公開してもらいたいという事を要求する内容を盛り込んだ（諸外国では当たり前なのだが、日本では一部しか公開されていないので、データベース化が必要と思われた）。4. は、次世代育成のため引き続き女子中高生の理系選択支援を行ってほしいという要望。5. は、これからはどのような事でも国際語（現状は英語）で発信してみんなに見ていただかなければならないだろう、ということである。

説明の最後に、平田委員長より、すべてのご意見は可能な限りは取り入れたこと、早く各省庁に持って行かなければいけないので、本日承認をいただきたい、遅れてしまうと意味がないので、どうかご協力をお願いしたい、ということが伝えられた。

引き続き、平田委員長より、要望書の表書きの書き方について提案がなされた。要望書を何度か提出されたことのある以前の委員長からは様々なご意見があったが、平成24年3月の要望書と同じように「男女共同参画学協会連絡会賛同学協会」とし、その下に賛同いただいた学協会を連ねて記載する形を検討している。

また、要望書への賛同等のメールをいただいた学協会の一覧が映写され、ご意見のあった学協会（応用物理学会と日本畜産学会）のご意見を平田委員長が読み上げた。内容は以下のとおり。

- ・応用物理学会：（要望書の）決定版をもって理事会の承認が必要なので、3月19日の学協会での決定には間に合わないこととなる。従って、要望書には「応用物理学会」を明記しないこととなった。
- ・日本畜産学会：大きな変更が無い限りは承認が得られることになっている。（条件付だがほぼご承認かと思われる）

その他については、本日欠席の学協会は委任状あるいは委任状でも賛同と明記されたメールが第12期事務局へ届いている。それ以外は、本日ご参加の皆様へ、ご賛同あるいは反対かを伺うことになる。まずは、ご意見のある方はお願いしたい。

~~~~~

ここからは、しばらく議論が交わされた（約1時間）。内容は以下のとおり。

○小形氏（日本物理学会）より：

2月27日版の要望書で理事会に諮ってみたのだが、基本的には具体的な提案で高く評価しており、3月中の提出をしたいとは思っているのだが、物理学会は非常に大きな学会のため、いろいろな人の意見がでて、3点ほど文言の修正をお願いしたい、という意見があった（2点は軽微なものだが、1点は本質的なことに触れている）。タイミング的に間に合えば、学会長やその周辺とメール審議でなんとかなる可能性はあるが、このままでは物理学会として賛同することはできない。時期的にどうなのか伺った上で、お伝えしたい。

○平田委員長より返答：4月まで入ってしまうわけにはいかないが、ここで皆さんの意見をお聞きして、できるだけ取り入れ、なるべく急いで修正して、3月末までには収束させてもう一度リエゾンMLに配信したい。

○小形氏（日本物理学会）より修正依頼1つ目：

2. の上から7行目：

- ①テニュアクロックの意味がつかめない（テニュアトラックの誤りか？）。
- ②「有期雇用」の前に「任期付きポスト」が必要では？

○平田委員長より上記について返答：

①⇒わかりにくいと思ったので「テニュア審査までの期間」という説明を付加してあるが、たとえば3年間で論文を何本か出さないとテニュアにしないというような期間をテニュアクロックという（テニュアトラックではない）。

②⇒「有期雇用」は「任期付き」の法律用語であり同じ意味なので追記は不要。

○小形氏（日本物理学会）より：

つまり①②を合わせて我々の言葉では「任期付ポストの期間延長」ということか。

○平田委員長より返答：そのとおりである。法律用語を使うと現状の書き方になる。この部分の文言修正は行わないでよいと思われるが、持参するときに相手によっては説明を加えるようにしたい。それでお認めいただきたい。

○小形氏（日本物理学会）より返答と修正依頼2つ目と3つ目：

上記1つ目については了解した。

次に2つ目の修正依頼だが、これはシビアな指摘である。該当箇所は3.の「数値目標設定」。特に(1)(2)の文は、現状の記載だと「数値目標設定」を要望することになり、つまり政府から各機関に数値目標はこのようにせよ、指示してくれるように要望していることにならないか。このようなことは、各機関で努力をしているし(数値目標を設定している場合もあるが他にもいろいろな方法で努力している)、このようなことを上から指示されたくない。上から指示してもらうように要望に出すのはおかしいのではないか。これについては削除してほしい、これは当学会で一番強い意見だった。データベース化や自己指標の設定であればよいのだが、数値目標設定を要望するのは、当学会では無理である。3.のタイトル、(1)と(2)の文から「数値目標設定」を削除してほしい。

また、3つ目の修正依頼として、3.(4)の「国際的な指標に基づく」のところだが、「国際的な指標」というものができるかどうか不明なところがあるので、「指標に基づく」は削除していただき、ただの「データ比較」くらいにしてはどうか。また、5.の2行目の「標準的な指標の導入」も同様。標準的な指標を決めるのはまだ無理なのではないか、まだ時期が早すぎるのではないかと危惧する意見が出た。なので、できればこの部分も削除して単に「国際語によるデータベース構築」としてもらえれば問題ないと思う。

○平田委員長より：他の方の意見をまず全部聞いてからまとめたい。

○工藤氏(土木学会)よりご意見：

当学会はオブザーバー参加のため、採決権はないので、参考として聞いていただければと思うが、当学会では、この要望書ならびにこれを連絡会の名称で提出することに関しては賛同しない。理由は、要望書の題目に「女性研究者・技術者」とあるのだが、要望の内容自体が学術機関における研究者を対象としたものであって、技術者は当てはまらない。当学会の場合、女性会員の4分の3が技術者であり、このままでは当学会会員の賛同は得られないので、この要望書については賛同しない。

○大鐘氏(日本繁殖生物学会)よりご意見：

委員会の議論を通して、要望書の提出に関しては賛同を得られた。ただ、理事会の1名から文言について若干矛盾している箇所があるという指摘があった。該当箇所は、1ページ目の真ん中のパラグラフの最後「先入観に囚われない公平かつ透明な業績評価が必要」。これを「2. 研究者のWLB基盤の定着」と考えると、実際には一律に業績を評価するというのではなくて「業績だけの一律な評価だけでなく、これまでの経験を配慮した本人のポテンシャルを適正に見極める柔軟な評価体制が必要である」という風な形の文言のほうが、2.の提案と合っているのでは無いか。単純に(平板に)ただ業績を評価するのではなくて、個人のポテンシャルまで配慮して柔軟に見極めるような評価体制というのが、採用や評価など全般に必要なのではないか、というのが理事の方の意見だった。

○平田委員長より：

「公平」という言葉は、そのようなことも鑑みた表現と考えていたが、もう少し表現を検討したいと思う。

○田中氏(地盤工学会)よりご意見：

要望書については、こちらからも意見をして反映等をしていただいたのだが、土木学会と同じく、当学会も学術機関の研究者だけではなく、技術者が非常に多い学会である。要望書の内容を見ていくと、やはり企業や技術者的な立場での文言が不足しているのでは、という意見があった(例えば、1.の2行目も研究室の主宰者として「教授、准教授、主任研究員」で終わっているなど)。そのため、女性技術者の現状と課題というのが反映されていない内容については、一般の学会員の賛同・理解を得るのが困難と考えている。今後、技術者について、現状と課題

をご検討いただき、提出先も経団連等を考えていただければ、と思っている。
それから、個人的に思ったのだが、3.の「女性研究者の応募を奨励する旨を明記し」というのは、男女雇用機会均等法に反するのではないかと。

○平田委員長より返答：女性の割合が圧倒的に少ない場合は違反にはならない。法律に照らし確認済である。

○八藤後氏（日本建築学会）よりご意見：

要望書の内容を検討したところ、ほぼ問題なくこのままで結構であるが、手続き上、学会の名前を出すためには理事会の承認が必要である。しかし、次の理事会が4月になってしまう。それに向かって、今日ここで討議されたものを最終決定として、最終版を理事会に提出して承認という形をとりたい、という手続き論ということだけで、意見をさせていただいた。

○関根氏（日本結晶学会）よりご意見：

当学会では幹事会レベルで承認と賛同が得られているが、1点だけ文言について確認したい。5.の文に「国際語による」という言葉があるが、「国際語」とは英語以外の言語は指していなくて英語（そのもの）であると解釈しているが、それでよいか。当学会の一部の先生から、違和感のある表現であるという意見があった。だが、これは少しでも不明瞭なことは要望書ではやめたほうがよい、という趣旨からの意見なので、「国際語」という言葉が一般的に使われていて、誤解が無いのであれば、もちろん結構である。

○栗原氏（日本化学会）よりご意見：

採決の仕方について確認したい。第8期のときは、要望書を提出するには全学協会の賛同が必要だったので、非常に苦労して事務局が各学協会を回った、と聞いた。そのあと、それを見直して、たぶん多数決になったと思う。今回はどうするのか。賛同していないのに、表書きに名前を連ねるのは気になるということであれば、表書きは「学協会連絡会」という名前を掲げて、構成メンバーとしてはこのような学会がある、と裏表紙などに書くという方法もあるのではないかと。表書きに賛同学会の名前だけを連ねるようにするかどうか、については、確認した方がよいのではないかと。

また、日本化学会では、今日までに承認が間に合わなかったが、3月末までにできるだけ承認を得られるように手続きをしている。しかし、当学会で強く出ている意見があった。この要望書の中には自分達の努力目標は書かないのか、という意見だったが、学会内へは次のように説明した。今からこの要望書をそのように修正するのはとても大変なので、要望書を持参するときに、自分達も努力しているのだということを示す資料も持参して説明することで十分ではないかと。

また、要望書の現状の書き方は施策にしてもらうために、大学や研究機関を中心に書かれているように見えるが、上記のような視点でもう少し柔軟に、研究者を技術者に読み替えてもらえれば、同じように通じる場所があるのではないかと。

○工藤氏（土木学会）よりご意見：

技術者に読み替えただけでは、まったく違うので通じない。

○栗原氏（日本化学会）より引き続きご意見：

そうであればこれから1年くらいかけて、技術系の学協会が中心になって要望書の準備をされてはどうか。最近になって技術系の学協会が加盟したのは、とても、喜ばしいことであるが、当連絡会は元々学術系の学協会が多かったので、今回の要望書の表現もそのようなニュアンスになってしまっているのだろう。技術系のほうで要望のある方々のご自分達で要望書をまとめる活動をしていってはどうだろうか。せっきく連絡会でこのようなネットワークを作っているのだから、柔軟に皆でやっていたらよいと思う。

ここに出席している方々も各学協会内でご説明いただくときは、言葉の違いをあまり取り上げずにご説明いただくと、学術系としてはありがたいと思う。技術系の事情がわからないために言葉が足りないところがあると思うので、是非、来年度に向けて、技術系の方々が活動を始められるような準備ができるようにしていけたらよいと思う。

○塩満氏（日本原子力学会）より：

日本物理学会の方々のご意見を聞いて、第3期・第4期科学技術基本計画に書かれていることも否定なさっているように聞こえた。「指標」という言葉は、第3期・第4期科学技術基本計画および第2次・第3次男女共同参画基本計画にもすでに載っていることなので、そこは読んでいただければ、と思う。

また、土木学会の方のご意見について、土木学会のエンジニアの方は確かにそのように思われるかもしれないが、土木工学科の大学の先生も苦労して、なんとか上に上がって、多くの方々を教育したいという思いもあると思う。土木学会の方の全部がエンジニアというわけではないと思うので、そこは栗原先生のおっしゃったようにお考え頂きたい。

科学技術基本計画自体も、民間企業をあまり対象としていないということもあるかもしれないが、今回の趣意書の中にも書かれているように、今お困りの若い男性・女性の方々が、ワークライフバランスに基づき、リーダーシップを発揮できるよう「国の政策の形に出来そうなこと」に焦点を絞って書いた、ということもご理解いただければと思う。3月を選んだというのは平成27年度予算に反映させるということで、戦略的に選択されてこの時期になり、内容も絞り込まれていることをご理解いただければ、と思う。非常に長い歴史をかけて、第3期・第4期科学技術基本計画、そして男女共同参画学協会連絡会の役割があった、ということも少し思い出していただけると、ありがたいと思う。

また、国際的にも非常に関心が高まっている。やはりフランスもアメリカも同じような問題を抱えているので、グローバルネットワークを作っていきたいと思う。国際語の話もあったが、世界各国も日本に期待している。グローバルネットワークやメンタリングシステムも作っていきたいと思っている。学協会連絡会にもご協力いただきたいと思う。

○平田委員長より：提言・要望WGの先生から何かご意見はないか。

○大坪氏（第7期・第8期提言委員会委員長）より：

技術者の問題に関しては、WGの中でもずいぶん議論があったのだが、最終的に、すべての箇所で「研究者・技術者」と書いてしまうと、文章がずっと頭に入ってこなくなると思われたため、タイトルだけで表現して、今回はこの案でということになったと思う。だがそれは技術者を排除したというわけではないので、土木学会の方も柔軟に考えてもらえればと思う。また、今回の要望・提言WGには、大学等でこれまで行われてきた女性研究者支援や、いわゆる加速プログラム、またはRPDなどに関して、要望書を出してきた人達というのが多いのだと思う。技術者の要望に関しては、技術同友会がすばらしい要望書を出していると思うが、連絡会でもそれに匹敵するような要望書を出すべきだと思う。だがそれは、大学に関して文科省に対し要望書を出して来た人達とは、また違った人達が中心になって、連絡会の中で活動していくほうが良いのであって、まさに栗原先生がおっしゃったようなことだと思う。技術系が要望書を出しても、それによって技術系と学術系が一緒に進むようになると思う。土木学会の方々もよくお考えになっていただきたい。

また、文言の面で先ほど「国際語」が話題になったが、内閣府や文科省の方々とお話をした場合は「英語」ではなく「国際語」という。時代の流れで、中国語が

国際語になる時代があるかもしれない。むしろ「英語」とは限らない書き方のほうがよいのではないか、と思うため「国際語」を支持する。

○岩熊氏（日本技術士会）：

自分は土木学会の会員も30数年になるが、民間会社に勤めるエンジニアである。そして、周りには技術者がたくさんいる。この連絡会に入ってきたのは2、3年前だが、まず、アンケートには非常に技術者には答えにくい設問が多かった。また、まとめるときに、2400人ほど企業に勤める方がいたが、その方達の要望をどのように拾い上げていくか、ということ、それはやはり技術者が中心になってやっていかなければ、難しいのではないか、と思った。この要望書を見て、技術者の内容が少ないとは思ったのだが、今それを求めるのは無理だろうと認識した。今日ここに参加したのは、当会の男女共同参画推進委員会で要望書について決議をしたときに、要望書の内容には技術者のことは少ないけれども、書いてある内容については共通することがたくさんあるので、やはり要望書は出して、私たちは、どんどん声を上げて、手を挙げていった方がよいのではないか、と伝えたかったためである。

技術者のことは、なんらかの機会でもた、整理して行ければよいのではないか、と思う。

○跡見氏（第9期委員長、日本宇宙生物学会）：

是非、3月末に要望書を出してほしいと思う。第9期の時に技術者の方にたくさん入ってもらえて、とても嬉しかった。女性の現実の問題については、技術者のことも加えるべきなので、化学会のほうから出されたご提案どおり、是非今後修正を加えて、来年また、要望を出せるとよいと思う。

自分達の所属している学会に対しても、要望（例えば女性比率30%など）を出していこう、という意見が先ほどあったと思う。それについても是非実現する方向に、その部分を改革していく、というのも私たちにとってはすごく重要だ。日本体力医学会については第9期で推薦して連絡会に加盟して頂いた。そして、2年前に理事の女性比率を30%に増やした。学会でも、そのようなことも戦略的にやっていけばできる。物理学会や化学学会などの大きな組織では難しいかもしれないが、いろいろなことを考えていくと、多くの味方がすぐにできるということもあるので、是非それを実現する方向に期待する。

また、第9期のときはギリギリになってしまい、とにかく3月末に出さなければいけないということで、郵送で送ったのだが、直接行って皆様にご挨拶することが大切だと思う。第12期日本数学会では持参することをご実行されるよう、よろしくお願ひしたい。

○栗原氏（日本化学会）：できるだけ3月中に、というのは確かだと思うので、私たちも学会内での承認をなんとか3月中に、と努力している。よろしくお願ひしたい。

○平田委員長より：

3月中にというご意見と、3月中では賛同できない、というご意見と両方あるので難しいと思うが、いただいたご意見を少し整理すると、以下であろう。

<文言修正に関して>「数値目標設定」は、かつての要望書で言われ、政府の科学技術基本計画や男女共同参画基本計画で掲げられている。それでも課題が解決されないのはなぜか、ということである。今までの要望書にも入っているにもかかわらず、承認が得られないということであれば、言葉を修正すればよいかと思う。

○澤田氏（日本動物学会）より：日本物理学会では、数値目標が上から降ってくる、というのを恐れているようだが、そういう趣旨で書いたものではまったく無い。趣旨としては、数値目標の設定を努力するように、上から言ってもらいたいという事であって、あくまでも数値目標は各機関での具体的な設定であると考えてい

るので、文言を変えるだけで、大丈夫と思われる。誤解の無いように文言を修正すればよいということで、確認したい。

- 小形氏（日本物理学会）：「数値目標設定」が何度も書かれている、というのは承知の上なのだが、今回はとても踏み込んで書かれていて、「機関ごとに」と限定している。そこが引っかかっている。「機関ごとに」個別に「数値目標を設定しろ」と要望しているように見える。今までは、全体で30%だったので、それについては異論は無いのだが、我々が機関ごとに踏み込んで言うてしまうと大変なことになる。そして、このままだと、「数値目標設定をしてくれ」と「要望」しているように見えるので、誤解の無いように書いてもらえればよいと思う。書き換えられたものを見てから、理事会で判断したい。
- 工藤氏（土木学会）：いくつかご意見をいただいたようなので、お返事します。土木学会としては、女性「研究者」からの要望ということであれば、出すことに対して異論は無い。先ほど、技術士会の代表の方もおっしゃっていたが、第3回大規模アンケート自体が、技術者の課題を拾い上げるような項目とは、必ずしもなっていないかった。この要望書に限って言えば、繰り返しになるが、必ずしも技術者の本質的な要望を反映したものとはなっていないので、技術者が多い学会としては、名前を載せていただきたくないというのが意見である。
- 平田委員長より：土木学会はオブザーバー参加とのことだが、1つの機関から1つの要望書しか出してはいけないということではないので、技術系の方がおまとめになって、別の要望書を出すことも、もちろん可能である。先ほど塩満先生がおっしゃったように、政策に直結することをめざし、効果の出やすいところを狙うと、まずは大学などの高等教育機関から、ということになるのかもしれないが、それは企業にお勤めの方を排除することを謳っているわけではない。なるべくお互いに情報交換しながら、勉強させていただきたいと思っている。ただ、今回おっしゃられたように、アンケートが技術者の方を振り返ったものになっていなかったというため、そこから組み上がった要望書としては、技術者にご満足いただけないものだったかと思われる。「技術者」という名前を入れたために、かえってそれがとってつけたようになっていて、うまく収まっていない、ということになるのかもしれない。
もう一度、提言・要望WGで直すしか道はないので、ICレコーダのテープ起こしをして、なるべく早く、今いただいたご意見を反映させ、誤解の生じない、お互いに理解できるような文章をやはり作っていかねばならない。WGに諮り、そのあとリエゾンMLに回す、というのが3月末までにできるかお約束できるかわからないのだが、大坪先生いかがだろうか。
- 大坪氏（第7期・第8期提言委員会委員長）より：
テープ起こしがどのくらいのスピードでできるかにかかる。それが可能なら対応できると思う。あと10日ある。
- 永田氏（日本植物学会）：
誤解の無いように文章を少し変えるくらいならよいが、本質に関わるような修正は、どうなのか。例えば先ほどから気になっているのだが「機関ごとの」というのは実をいうとちょっと本質的である。ここを削除してしまえば「機関ごとの」と入っているところを評価して、理事会を通し認めていたところを、また「機関ごとの」が無いダウングレードしたもので、認め直してもらうのか、ということに関わってくる。また皆さん理事会にかけ直すということになってしまうのではないか。自分は来年（第13期の副委員長なので）、今の技術者の問題等をいろいろ承って、来年度以降、変えられるところは変えていくし、新しい要望書だったら検討もできると思うのだが、今の時点で、中身のかなり本質的なことに関わると

ころを今から修正するというのは、いろいろな意味で難しいのでは無いか、と思っている。

○平田委員長より：

修正については、これからWGで考えるが、要望書というのは今年が最後というわけではないので、まずは文言修正をお含みおいた上で今回の骨子を認めていただくというようにしたい。それでこぼれてしまった点、例えば技術者からこういう要望があったのに入っていない、等に関しては、次期以降にも繰り返し同じ要望書を出していくということが、結局は力につながるであろうと思う。本日も承認をいただければ、私どもは動ける。今年1年を無駄にしないようにということが、率直な願いである。

○坂田氏（日本生態学会）：

進めて行かれる方針はたいへん結構だと思うのだが、やはり理事会で承認されていない状態で、賛同学協会のところに名前を載せるわけにはいかないなので、早めに最終版を出していただき、賛同についてはなるべく努力する。理事会から承認が得られないときは、表書きから名前を抜いていただいた上で、栗原氏（日本化学会）のアイデアのように、あとがきのところなどで、連絡会にはこのようなメンバー（学協会）がいますよ、という記述を、表書きとは別に書くというのは難しいか。

○栗原氏（日本化学会）：

裏表紙（最後のページ）に構成メンバー（全学協会）を載せてはどうか。そうしないと、昔のように全学協会が賛同しないと要望書が出せない時代に後戻りしてしまう。それが大変だったから多数決になったのだし、以前は有志学会ということで、賛成したところだけ記載した。それがあまりにも大変だから、多数決で要望書を出せるようにしようという議論があって、みんな賛成したと思う。そこをこのようにやっていると、また元にもどるような感じである。普通、多数決で決めたことに対して、誰が賛成した・反対した、ということはずっと言わない。実は化学会は、一応、全体方針OKで、あとは幹事学会にお任せするという形で進めることで合意をいただいている。そうしないと、文言が換わってくるたびに理事会に諮るといえるのは、とても対応しきれない。

○平田委員長より：

法律と同じで最後は国会にゆだねるという形でしょうか。私どもは選挙で選出されたわけではないのだが、今、いただいたご意見を精査して再案は作りますけれども、やはり、基本的にはご一任いただくという形で、多数決を取りましようか。

○栗原氏（日本化学会）：やはり、仲間の輪がとても重要である。だからこそ、まだ「全学協会」という気持ちがまだ残っているのだと思う。それ自体は貴重だと思うが、幹事学会になってみると、なかなかまとめるのにくいと思う。今はずいぶん学協会の数も増えたので、幹事学会も1年ごとに代わっていくので、そのあたりをみんなでどのように、目標と実際に行う分担を考えていくのか、ということがありますが、難しく正解はわからない。

○小形氏（日本物理学会）：

前回の要望書の時から確か、賛同学協会の名前を連ねることにしたので、今回もその方式にしてほしい。物理学会の理事会ではそのように説明してしまったので、その方式でお願いしたい。そして、今日の修正を反映した要望書を見て、なるべく3月中に判断したいと思う。そこで、賛同した場合は名前を入れるし、そうでなければ、名前を入れないことにしてほしい。

○栗原氏（日本化学会）：そのように決まったことを知らなかった。

○光武氏（日本蛋白質科学会）：途中、参加をしなかったのが、はっきりと覚えていないのだが、何分のいくつかの賛成があれば、（要望書を）学協会として出してよ

いということになったかと思うのだが、議事録などに載っていないか。結局それは決まらなかったのか。

- 平田委員長より：相馬委員長のときに、確か多数決でよいという話になったかと思う。規約の6. に従うと「議長の判断により、採決の必要のある場合には、運営委員会において、(オブザーバーを除く) 出席学協会を各一票とし、その過半数の投票で可決する。可否同数の場合は、議長が決定する。」とあるので、採決はできる。採決をして、賛成多数で可決すれば、連絡会として要望書を出すことはできる。
- 中山氏（日本木材学会）より：議論が出尽くしたようであれば、やはり議事進行として、必要であれば採決をしていただいて、方向性をきっちりと決めた方がよろしいのではないかと思う。
- 平田委員長より：
このあと、今日のご意見を反映した修正案は出します。それを今すぐにお見せできないが、このあたりをお含みおきいただいた上で、採決の用紙を配布するので、記入してほしい。
遅くとも3月中に要望書最終版をWGおよびリエゾンにお渡しして、各学協会にお目にかけるというお約束をした上で、採決を取らせてほしい。各学協会につき1名分の用紙を配っている。1学協会で複数人の出席がある場合は、ご留意いただきたい。
- 小形氏（日本物理学会）：最終的な要望書の形式は、賛同学協会として賛同した学協会の名前を表紙に連ねる形なのか、あるいは、学協会連絡会として単名で出すのか、明確にしてほしい。
- 岩熊氏（日本技術士会）：
1ページ目の真ん中あたりに「第3回大規模アンケート結果」と書いてあるが、正式な名称にした方がよいのではないか。また、先ほど、研究者・技術者という話があったが、そのアンケートから見えてきたものから、特に研究者に絞って、出した要望書である、というように定義された方がよいように思えた。
- 平田委員長より返答：先頭に入れているつもりなのだが修正を考慮する。また、持って行くときに言葉で説明するようにしたい。
- 岩熊氏（日本技術士会）：少し読み取りにくいと思う。1ページ目の真ん中あたりに「主に研究者に対して、アンケートから見えてきたもの」というように1行ほどでよいので、入れてはどうか。
- 平田委員長より返答：修正を検討する。
- 平田委員長より：先ほどの要望書の形式についてはどうだろうか。「賛同学協会」として表紙に、賛同した学協会の名前を連ねる形がよいと思うが、いかがだろうか（第9期の要望書と同じ形式）。そのほうがはっきりしてよいと思うのだが（第9期の要望書の表書きを映写）。
- 八藤後氏（日本建築学会）：
内容についてはOKなのだが、建築学会も理事会を通過していないので、手続き的なことで提案をしたい。「男女共同参画学協会連絡会」として「賛同」と入れずに、下に学協会の名前を（すべて）入れて、賛同では無く連絡会を構成している学協会ですよ、という風を書いておけばよいのではないか。「賛同」としてしまうと、個々の学協会が賛同しているのかと誤解されるので。
- 小形氏（日本物理学会）：
誤解ではなくて、「賛同」しているのを明記したいという事だと思う。つまり、積極的な意味での「賛同」である。
- 八藤後氏（日本建築学会）：
先ほどの意見のとおり、提案したい。

○平田委員長より返答：「構成学協会」と書いてしまうと、賛成しないとはっきり言っている学協会もあるので（たとえば、応用物理学会は学会名を明記しないこととしたという連絡をいただいているので）事実と相違してしまう。「賛同」というように書くと、賛同しないところは入らないのでそのほうが良いと思うのだが。

○八藤後氏（日本建築学会）：

建築学会は、内容はOKなのだが、単に手続きが、理事会を通過していないので、賛同とできないが、しかし逆に抜かされると、建築学会は賛同していないと思われるのも嫌だな、ということで申し上げた。

○平田委員長より返答：

ご提案として、要望書を持って行くのをちょっと遅らせれば、例えば、4月10日に理事会があるというのが今うかがっている中で一番遅いので、2段階で要望書を作ることも可能と思う。最初は、3月末で締めてもらって、そのあとに理事会のあるところは、賛同学会名を増やして書き足し、持って行くというのはどうか。今日、ご賛同いただいた学協会は、表紙に名前を連ねるようにさせていただいて、後からメールでご連絡いただいた学協会は、後の日付に変えたものに加えて順次出す。即ち賛同学協会の名前を追加していく。中身は変更せず、3月末までにリエゾンMLに流したもので固定する。そのようにして、なるべく多くの学協会の賛同をいただきたいと思っている。そうしないと発動しない。ただ持って行く時期がいつ頃になるか不明ではある（塩満氏の話だと3月中に持っていけないと意味ないとのこと）。

~~~~~

議論が落ち着いたので、紙による採決が行われた。

採決するにあたり、平田委員長より改めて以下のような説明とお願いがあった。

- ・文章の軽微な修正および、誤解を生まないような修正を施した最終版を、WGで作成。
- ・3月の早めにリエゾンMLへその要望書最終版を提出する。

上記のことを信用していただいた上で、本日「この要望書を提出すること」に関して採決をとらせて頂く。要望書提出の場合は、賛同学協会の名前を要望書に記載する。

~~~~~

また、内容はOKで要望書を提出することについては良いが、理事会等がまだだから賛同と書けない、という学協会は採決の紙に「保留」と書いておいていただくとありがたい。そうすれば、あとで、その学協会に問い合わせでも、賛同いただいた学協会の名前を要望書の表紙に付け加え、日付を修正してゆくことができる。4月中旬には殆どの学協会の賛同が集まるのではないかと期待している。そのようなことをお約束した上で、採決を取らせていただきたい。

では、1学協会1票ということで、採決の紙に学協会のお書きいただきたい。

~~~~~

採決が行われている中、平田委員長より、以下のような話があった。

先ほどいただいた技術者系のご意見については、2本立てで出すなど、これからの課題として受け止めていくしかない。これから女性技術者がすごく増えるかもしれないし、それはとても結構なことだと思うので、いろいろな方がやりやすくなるように、していきたいと思っている。

では、採決の紙に記入いただけましたら、事務局の方へ渡してほしい。

（委員長から事務局へ：数を数えて委任状の数も数えてほしい）

- 小形氏（物理学会）から質問：この紙は「要望書に関する承諾書」「下記の内容について賛同し、学協会名を賛同学協会として記載することに承諾します」と書かれている。意味がわからないので、まだ出していない。理事会で賛同されていないのだから、名前を書くことはできない。
- 平田委員長から回答：こちらで用意した用紙がそういうものだったのだが、本日状況が変わって「修正を含みおいた上で」となったためであり、申し訳ない。修正版を3月末までに出すことを前提として、それに対して賛同はするが、それまでは保留というような形で、一筆書いておいてほしい。例えばリエゾンMLの最終修正版に対し理事会等に諮ったあとなら連絡できるが、現時点では保留、というようにお願いしたい。  
理事会等のタイミングが合わない学協会は、そのように書いておいていただけるとありがたい。

※事務局へ、委員長から次のように分けて集計するように指示があった。

- ①賛同、②保留、③賛同しない、④白票他、⑤委任状

~~~~~

しばらくして、平田委員長から集計結果が発表された。

※規約6. によると過半数で可決。賛成/反対が同数の場合は議長が議決権を持つ。

●集計結果：

本日参加の正式加盟学協会 : 39 学協会

①賛同 : 20 学協会 ※その後の集計では 21

⇒過半数に達したので要望書提出を可決

【3月19日の票数まとめ】

①賛同 21 ②保留 17 ③賛同しない 1 ④白票他 0 ⑤委任状 10 であった。

3/20以降に理事会が開催されるために理事会の承認をもらえれば賛同という学協会は「保留」としてあり、採決の用紙は事務局に保存してある。遅い理事会開催は、4/10、早くて3/20。「保留」には理由の記載がないものもあった。

【4月1日事務局注：リエゾンメール{liaison:2576} に対する4月1日現在の集計結果】

正規加盟学協会

①賛同 42 ②後で返信 4 ③賛同しない 1 ④ご催促中 5

オブザーバー学協会

①賛同 13 ②後で返信 6 ③反対 2 ④ご催促中 10 である。

(応用物理学会様は{liaison:2578}メール審議によりオブザーバー学協会としてカウント。{liaison:2580}メールによる報告。)

~~~~~

●平田委員長によるまとめ：

この度の要望書案の骨子をご承認と言うことで、提出に向けて進めさせていただく。賛同学協会という形式で記載したものを、趣意書とともに各所に提出する。ご意見を反映した要望書最終版を3月末までにリエゾンMLにお送りする。4月以降に理事会でご賛同があった学協会に関しては、その賛同学協会の名前を追加して日付も変えた要望書として提出する。

⇒拍手を持って承認された。

~~~~~

8. 要望書の表書きの学協会名の記載の仕方について

上記7. と合わせて議論された（上記参照）。

※今回も、映写している以前の要望書（第9期）の表紙と同様に「男女共同参画学協会連絡会賛同学協会」とし、その下に賛同された学協会の名前をすべて記載する。

ここで、分担金を説明する紙「2014年度 男女共同参画連絡会分担金 請求書類について」および「分担金一覧」が配布され、平田委員長から説明があった。配布書類を先生方から（学会のシーズンなので事務局にお渡しするチャンスだと思うので）機会があればお渡しいただければ、と思う。

【事務局注】 まずは、本日配布した書類を数学会事務局宛にFAXしていただき、それに基づき数学会から請求書類を各学協会に送り（4月中旬）、分担金を振り込んでいただく（5月末締切）という手順になる。

IV その他

1. オブザーバー学協会への正規加盟のお願い

平田委員長より、オブザーバー学協会への正規加盟への転換を是非お願いしたいと伝えられた。

正式加盟になり、議決権をいただいたほうがよいと思う。正式加盟とオブザーバー加盟の違いは、議決権と分担金額（金額は会員数による）である。

いつも参加されご意見をいただいているオブザーバー学協会は、アクティブな学協会と思うので、是非とも仲間にお迎えしたい。いろいろな意見があるということが重要だと思う。

2. 次回運営委員会の開催について

2014年6月24日（火曜）15時の予定（日時変更の可能性あり）

場 所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1号館121会議室

※ 日程変更の場合も含め、ご案内をリエゾンに配信予定。

以上